

民主島根

2016年
3.13
第1258号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

集い、街頭から5野党合意を訴える 夏の参院選で戦争勢力へ審判を

春名議員、遠藤党対策委員、島根県政長 松江・雲南で行動

日本共産党の春名なおき元衆院議員と遠藤秀和党島取・島根国政対策委員長は6日、松江、雲南両市で集いや街頭で演説し、戦争法廃止などの5野党合意にふれ、「この合意の力で、1人区に市民と野党の共同候補を押し立て、自民・公明の戦争勢力の候補者を全部落とそう」と訴えました。雲南市での集いでは、「安倍政治はひどいが、支持率が下がらないのが不思議だ」との市民の疑問の声が紹介され、春名氏は「他に適当な人がいない」との消極的支持が圧倒的だとし、「参院選で野党と市民の共同対安倍暴走政治の対抗軸ができると激変が起こる」と答えました。



集い参加者の質問に答える春名氏（中央）、遠藤氏（写真上）
夕方、JR木次駅前での街頭宣伝（写真右下）



2月県議会の論戦から

日本共産党の尾村利成県議は2月29日、一般質問に、大國陽介県議は4日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部をたどりました。

尾村県議の一般質問

病児保育の拡充を要求

尾村県議は、病児保育の全市町村での開設と定員拡大に向け、県としてイニシアチブを発揮するよう求めました。

現在、県内の病児保育は全19市町村中、12市町の29施設で実施さ

大國県議の一問一答

国保滞納事務の改善を

大國県議は、国保料・税滞納者に対して色付き封筒で差し押さえ事前通知書を送られている問題や、納付相談の際の窓口での対応について改善を求めました。

保育士加配の補助制度創設を

大國県議は、1歳児クラスの保育士配置基準は6対1であり、日常の保育はもとより、災害時の避難を考慮すると不十分だと指摘。17県で予算措置

子どもの貧困対策充実へ

尾村県議の質問に対し、県が「県立病院での病児保育の実施を検討している」と答弁したことに対し、大國県議は、病院職員の利用のみならず、地域のニーズを把握し、利用定員を設定するよう求めました。

鼓動

「これは大げさではなく、戦後政治史の一つの転機になる」(BSSテレビ「NEWS23」岸井成格キャスター)、「現代の『薩長同盟』とも言うべきもの」(五十嵐仁・元大原社会問題研究所長)。2月19日、日本共産党を含む5野党が国政選挙での選挙協力で合意したことが大反響をよんでいる▼「すごい合意、画期的」「選挙が面白くなるね」「共産党に期待しています」。県内でも各地から歓迎の声が寄せられている。

公立病院の病児保育は大変有効」と答え、糸賀病院局長は「実施に向け対応する」と述べました。合った要介護認定実施を」と改善を求めました。藤間健康福祉部長は「要介護認定が一人ひとりの実情を踏まえて正確丁寧に行えるよう支援したい」と答えました。(2面に続く)

画を迫り、履行できなければ差し押さえを迫る納付相談窓口での対応を告発。「滞納者は生活全体が崩れている。市町村の窓口は一緒に生活をして生活を立て直すのが親身な相談だ。県もその立場で市町村と協議、話し合いに臨んでほしい」と要望しました。

置かれている職員加配への補助制度を設けるべき」と要求しました。藤間健康福祉部長は「国に対し、引き続き要望する」と答えました。

していききたい」と答弁しました。また、子どもの貧困対策として、就学援助制度の充実や返済不要の奨学金制度の創設などに向け、県健康福祉部と教育委員会とで検討の場を設置し、早急に協議を開始するよう要求しました。

「これは大げさではなく、戦後政治史の一つの転機になる」(BSSテレビ「NEWS23」岸井成格キャスター)、「現代の『薩長同盟』とも言うべきもの」(五十嵐仁・元大原社会問題研究所長)。2月19日、日本共産党を含む5野党が国政選挙での選挙協力で合意したことが大反響をよんでいる▼「すごい合意、画期的」「選挙が面白くなるね」「共産党に期待しています」。県内でも各地から歓迎の声が寄せられている。

「野党勝利の共同の機関紙」として他党関係者が「赤旗」日刊紙、日曜版を購読する経験も▼「戦争法は廃止を」「野党は共闘を」との国民運動が合意に結実した。日本共産党が「戦争法廃止の国民連合政府」提案を行い、草の根で奮闘してきたことが世論を動かした。みんなの力でかちとった新しい政治局面だ▼2日、安倍首相は国会で明文改憲を「在任中に成し遂げたい」と述べた。憲法秩序を無視して立憲主義・民主主義を破壊した権力者が、憲法そのものを破壊しようとしている。一方、消費税増税と社会保障の切り捨てで日本経済も財政も破壊され、国民の生活が持続不能にさせられようとしている▼3日、参院予算委員会での小池晃副委員長の質問に大きな反響があった。質問をテレビで見た松江市内の男性から電話があった。「自分も介護の現実を直面しているが本当に大変だ。このままでは日本は大変なことになる。今度ばかりは共産党を応援する」。▼改憲の道、生活破壊の道に踏み出させはならない。今度の選挙を、民主主義のもとでの「最後の選挙」にしてはならない。(後)